

出題分析		
試験時間 75 分	配点 150 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問 3 題で構成され, [Ⅰ] 古代の政治, [Ⅱ] 鎌倉～室町時代の文化, [Ⅲ] 近世～近代の外交を中心に問われた。昨年に引き続き原始時代からは出題されず, 昭和期以降からの出題もみられなかった。設問数は記述問題, 選択問題ともに減少した。</p> <p>一部でやや細かい知識を求める問題があったものの全体を通じて概ね解答しやすく, 基本～標準レベルの知識で対応できる問題を中心に構成されていた。漢字のミスや設問文の誤読による失点を避け, 高得点を目指したい。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
[Ⅰ]	古代の政治	リード文中の空欄にそのままあてはめるには難しかったかもしれないが, 各設問を読めば詳細な説明が用意されており解答しやすかった。【設問イ】空欄 (イ) に入る渡来系氏族は秦氏である。【設問ウ】やや細かい知識が問われたが, 「左 (ウ)」「右 (ウ)」から想起したい。【設問 b】やや細かい知識が問われた。【設問 e】やや難。系図とともに頭に入れておきたい。	標準
[Ⅱ]	鎌倉～室町時代の文化	(1)網野善彦『海と列島の中世』, (2)中沢新一『悪党的思考』, (3)野間宏・沖浦和光『アジアの聖と賤 被差別民の歴史と文化』をもとにして鎌倉～室町時代の文化について問われた。【設問イ・ウ】混同しやすいためしっかり区別しておきたい。【設問キ】やや難。観阿弥と迷ったかもしれない。【設問 c】地理的に絞り込めなくても, 『風土記』が現存する国は選択肢のなかでは播磨のみ。【設問 d】2 と 3 で迷う。1: 蓮如の子である実悟の著書で, 加賀の一向一揆に関する史料として知られる。3: 親鸞自身ではなく弟子である唯円の著書。【設問 g】やや細かい知識が問われた。【設問 h】難。消去法でも解答可能か。	標準

設問別講評			
〔Ⅲ〕	近世～近代の外交	(1)16世紀の対外関係, (2)メーチニコフ『回想の明治維新』より, 岩倉使節団, (3)第一次世界大戦後の対外関係について問われた。【設問3】【設問6】やや細かい知識が問われた。【設問13】岩倉使節団副使4人のうち, 山口尚芳は佐賀藩出身。惑わされずに3を選びたい。【設問15】難。1の岸田俊子は自由民権運動に参加した女性運動家であるが, 4の永井繁子が細かい知識であるため消去法でも解答しにくい。【設問17】やや難だが, 1と4は幕末期の人物ではない。1:シーボルトはドイツ人医師, 2:フルベッキはオランダ人宣教師, 4:ハリマンは日露戦争後のハリマン計画で知られるアメリカの鉄道王である。	標準

合格のための学習法

一部で細かい知識が問われたものの, 大半は教科書に準じた内容を問う標準的な設問で構成されていた。したがって, 設問文の誤読を含めたミスがないように解答することが大前提となる。そのためには, 日頃から特定のテーマ・時代に偏らない丁寧な学習を続けることが肝要になる。教科書に加えて用語集を精読することで語彙と知識を増やし, 細かい知識が要求される問題にも備えたい。過去問演習の際には, 語群に出てきた用語は, 選ばなかったものも含めてその内容を確認しておこう。また, 図説資料集は, 文化史の学習で活用するのは当然だが, 地図が多く掲載されており, 日本国内の出来事と連動させて諸外国の動向について押さえることも可能であるため, 存分に活用したい。